

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 2月号 (NO34)

2013年2月10日(日)発行

【農暦】無理の積み重ねが、農的生活に負担感！

○年齢的なものがあるのか新年会や OB 会と共に飲み会のお誘いが多い。正月ののんびりした時間を継続し酒の会を楽しんでいる。いつもの顔、久しぶりの顔、何となくその人の重ねた年月が見える様な気がする。衣裳にも、言葉にも、云い分にも、話題にも、である。合わせ鏡の様に自分の重ねて来た年月が見えてくる。相手にも同じ様に見えるのだと思う。後で、不思議な時間の経過を共有していたのだと思う。今年も、既に12分の1が過ぎてしまった。年頭に検討する事にしていた“農的生活の立て直し構想”のスケッチは進んでいない。考えて見れば大袈裟にあれこれする事ではないように思えて来た。朝倉・浅井連合の前に撤退を余儀なくされた織田軍ではないのである。畑をリセットし、出来るだろうと思う範囲の7割程度の作付けをすればよだけで、大袈裟な事ではない。農的生活は、数値化出来ない要素が多く、また数値化されない部分を大事にしたいと思う。農的生活の質は、この部分にあると思うからである。私に相応しいズボラの選択肢でもある。だが、不要になった(なるであろう)農業資材の整理や処分だけは優先的にやらなければならない。気が重い。

○今までの様に作物の種類や面積を決めての農作業を消化していくような進め方は今年からは止める事にする。作物に引きずられ作業をして出来ない

分が残り、後始末に追われ、草の繁茂力に負ける構図にはしたくない。2地域居住、体力それに一番大事な気力など考えると実践能力は自分で考えるレベル以上に落ちている。ガーデンでの先輩が5年毎位でガククリと落ちると云われた話が思い出される。作業能力の評価の甘さとアクシデントなどで生じた無理をカバー出来なくなって来ていた。振り返って考えると、無理の積み重ねが、農的生活に負担感を覚えるようになった始まりの様に見える。今年からは、無理のないスタイルを心掛けたいと思っている。

○年末から正月までの個人的な飲み会からいろいろな会などの、この時期ならではの機会を得て楽しい場や時間を持つこと出来た。そんな中で、農的生活への関心からか“k o g u r e 農場”を訪ねたいと云うグループや個人からの話が出ている。先日は自然薯を送って欲しいと頼まれ、笠間の自然薯の会のものを送った。農への初心を思えば、些細な、農



<来月はひな祭り>ショッピング街には雛飾りのモーセンの赤が目を引き。7日撮影

を通じての出会いや交流は農的生活の大事な部分である。

○飲み会と寒さも手伝って怠惰が身についてしまった。身体は重くなるばかりある。これではいけないと、庭木などの整理、剪定を始めた。久しぶりに作業する事で、身体が喜んでいる事が感じられた。これも農的生活の楽しみの大事な部分である。農作業で汗まみれになり心持の良い疲労感を楽しんだ事が思い出された。久しく無かった。これらの数値化されない部分を^{はら}んだ、ウキウキドキドキの農的生活の復活を、“土を楽しむ”で改めて実践して行きたい。今日(4日)は立春である。もうそろそろ始めることにする。

【楽農】一部を除き農作業休止中

<ハウス> ; なし<畑 A> ; ブルーベリー、キュウイ、ブドウの剪定<畑 B> ; なし

*庭木など整理と剪定

【楽市】イベント交流・直売など

○グリーンジム本戸倶楽部 (1月20-21日)

<ピッコロファームの共同圃場>

① トマトの支柱に使う竹取り作業

②ピッコロファームの会の総会を行う。

*詳細はブログの“ピッコロファーム楽農・楽市”に掲載。

○その他 ;

①地方紙取材受けエコピア柏 (23日) 男の料理教室 (25日)。

②初吟会 (12日) ラクビーOB会 (18日) 笠吟連 (19日)、山野草 (25日) などの新年会と個人的な飲み会などを楽しんだ。

【つぶやき=Tweet】 深刻な「日本のリアル」!

○本の話が多くなるが、元会社の友人の TH さんから「日本のリアル」養老孟司著が送られて来た。11日付けの手紙には推薦の言葉が綴られていた。第1章 ; 現代人の日常には、現実がない。第2章 ; 田んぼには肥料も農薬もいらぬ。第3章 : 山と川に手を入れれば、漁業は復活する。第4章 ; 「林学がない国」の森林を救う。タイトルで内容が想像される。私は若いころから1次、2次産業が大事だと思っていた。収益面では数字が大きい程に高く、経済的評価も高い。最近コラボして6次産業などと云っているが、政治(自民)が1次産業?と云うのは票田が大事だけであるように思えてならない。私には直ぐにでも読みたくなるタイトルばかりである。農的生活を始めた理由の1つはこの辺にあったのである。1次産業への考えが近いのが嬉しい。本のラベルカバーには「本当の仕事」をしている4人と考える。とあった。2章の岩澤信夫さんの講演を千葉の佐倉で大分前に聞いていたので中味は大体判った。当時環境大臣の小池百合子が視察に来て感激されて?帰ったとか話されていた。“山と川を健全にすれば海が豊かになる”のテーマの活動をしているグループの話も聞いていて知っていた。4章は知らない事ばかりであったので“日本の森は輸

入材に救われた”などは驚きであった。是非とも読んで頂きたく下手な紹介をしてはと引用が多くなった。ほぼ同じ時期に発行した神門善久著「日本農業への正しい絶望法（逆説？）」を養老孟司さんが推薦されていた。東大医学部の養老さんは“虫が好き”であった様ですが、農業にこれだけ造詣が深いとは思わなかった。推薦の文に「智の井戸」が頭の中にあるとあったが肯首させられる。

○最近の本を多く読む様になった。知識不足の解消には時期がなくても早くはない。年末から読んだ本だけで十数冊が本棚に並んでいる。読書が大事な若い頃は致命的であるほど読んでいない。私にとっては画期的に多い。20代の時の上司だったNさんが定年退職し数年が経って、たまたま出会った時にヘーゲルかニーチェかの分厚い本を、今これを読んでいるよと自慢げに満足した顔で云われた。麻雀好きで本など無縁に見えた人で、びっくりした事。土光さんの秘書をやられ当時副社長だったKさんがやや厚め本を片手に職場を歩きながら、元気でやっているかと声を掛けられた。何の本を読んでいるかと聞けば良かったと思った事。読書家と云われていた当時大臣？の大平正芳が虎ノ門の書店で本を探す所に遭遇した。本が好きそうに見えた？SPが付いていた事などが思い出された。30年以上も前になる本にまつわる余り意味のない記憶である。何故かみように鮮明に覚えている。読書する人に憧れや羨望の様なものがあつたのかも知れない。もっと本を読んでおけば良かったと反省するのではなく、この時期のこの時間を、興味本位の乱読を少しだけ楽しんでいる。土光敏夫さんはコエダメを担ぎ(菜園で)、目刺しご飯などで有名な人？農に造詣があつたとは思えないが、農的生活の元祖？の人である。

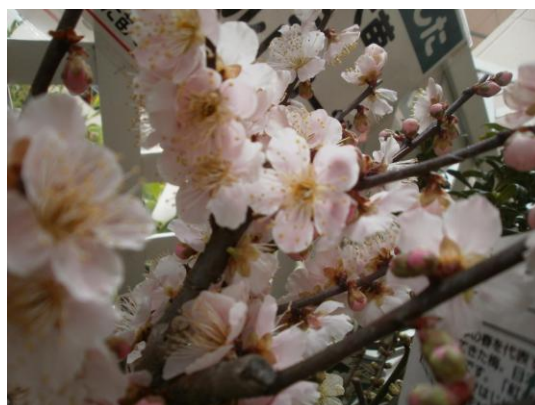
○先号で焚書がテーマのフランソワトリュフォーの映画「華氏451」に触れたが、書籍の電子化が進む一方で紙の本が依然として好まれていると聞いて少しだけホットしている。コンピューターゼネレーションの最中に、紙の需要が無くなるのではと心配したが逆に増えたと云う話を製紙会社のお客さんと現役時にした事があつた。意外と紙の本は支持されるのかも知れない。正月の余韻つづきでつまらない昔の話にしてしまった。

*「日本のリアル」PHP新書、日本の深刻なリアルがあります。読んで見て下さい。

【後記】立春が過ぎて雪の気配、蕾が膨らみ始め TV ドラマの八重の夫の新島襄の詩「寒梅」の情景が観察されそうである。梅花に促される前に始動せねば、。

笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜白梅＞“庭上の寒梅”は蕾。花屋さんの梅は満開。7日撮影

発行者；Kogure農場・小暮虎雄
住所；笠間市本戸4201-10
携帯電話；090-9333-4135
メール；torao-k@nifty.ne.jp
HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>